

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 合同部活動の推進に向けた実証事業 成果報告書（概要）

滋賀県長浜市

●地域における現状・課題

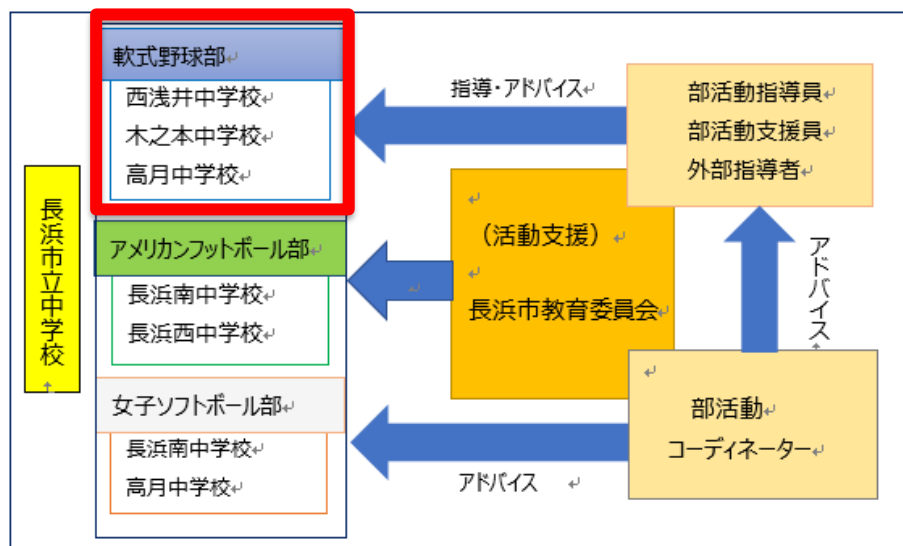
少子化の観点から長浜市の今後の生徒数の推移を見ると、中学校への入学者数は右肩下がりとなり、令和5年度から令和11年度までの6年間では、1,076人から919人まで、85%に減少すると予想される。長浜市からの人口流出も増えていることに鑑みると、学校としても統廃合を含めた危機的な状況を迎えることとなる。部活動においても市内中学校の生徒数および部活動加入人数の推移を見ると、10年前から令和4年度の生徒数は、700人減少し、部活動加入人数では、約1,000人減少しており、加入率も64.1%まで落ち込んでいる。まさにこの10年間の激減は、学校部活動の存続危機に直面している。このような現状を踏まえ、子どもたちに犠牲が及ばないよう、持続可能な部活動の在り方について早急に検討し、本市にふさわしい形の構築を急がなければならない。

（令和5年度 長浜市教育委員会学区別児童数調査から）（滋賀県教育委員会事務局保健体育課 令和4年度保健体育科調査から）

●取組事項の概要

令和5年7月に部活動地域移行に関するアンケートを7つのカテゴリで実施し、6つの学校関係のカテゴリにおいては、12,091人に延べ67項目のアンケートを行い、7,394人（回答率61.2%）から回答を得た。アンケート結果より、市内中学生の学校部活動への加入割合は、全体のほぼ9割（複数回答：89%）であり、自分の希望する部活動に8割以上の生徒が入部しているという結果を得た。また、そのうち8割以上（84%）の生徒が、活動が楽しい、適切な活動時間であるという理由で、学校部活動に満足していると回答している。このような結果を踏まえて、拙速に地域移行を進めるのではなく、長浜市の実態を把握し、生徒数の減少により、部員不足で部活動ができない生徒や、やりたい部活動が進学先がない生徒のために、地域連携としての合同部活動・拠点校型合同部活動を推進することで、子どもたちが犠牲にならないよう本市の実情に合ったスポーツ環境を整備し、取り組むこととした。モデル中学校では、部活動の充実・強化のために地域連携の取り組みから始め、部活指導員や部活支援員、外部指導者を手厚く配置（人数、人格、指導力等）することによって実証事業を進めた。地域連携では、学校と外部の指導者が役割を分担し、緊密な連携を図ることで、必然的に教員の負担軽減につながり、また、生徒たちが、専門的できめ細かい指導を、効率的で効果的に受けられることで、より充実したスポーツ活動環境の整備を目指すこととした。

●運営体制図



●取組の成果、特に工夫した点等

合同部活動の実証事業としては、西浅井中学校、高月中学校、木之本中学校3校の軟式野球の合同部活動を中心展開し、南中学校と高月中学校の女子ソフトボール、南中学校と西中学校のアメリカンフットボールの2種目についても検証した。広範囲の中学校間の練習、試合等については、保護者の送迎等の協力のもと充実した活動が展開できた。軟式野球は高校野球で甲子園を経験した指導者が兼職兼業をして携わっていただき、女子ソフトボールでは全国大会優勝監督に指導をもらい、アメリカンフットボールは、名古屋より専門的な指導者を招き、きめ細かい指導内容で、効率的に効果的な活動が展開された。種目によっての特徴はあるものの、専門的なきめ細かい指導が行き届いた。また、教員の働き方改革については、先生方の負担が大きく軽減されたことが伺える。外部指導者の効果として、中学校の教員「ストレスチェック」の分析結果によれば、外部指導者が2人以上（合同も含め）入っている学校では、健康リスクが少ないという結果が出ている。外部指導者を適切に導入し部活動を行った学校は、教員のストレス度がかなり低かった。モデル校は市内中学校全体で教員のストレスが最小であった。